

「峠」というのは、古来から交通の重要な地点でした。山脈（尾根）で隔てられた2つの地点---たとえば「A村」と「B村」を結ぶ道を造ろうと思えば、山嶺の最も標高の低い地点を通すのが得策です。建設費も通過時間も低く抑えることができるからです。山脈の多い日本では「天城峠」「三国峠」「清水峠」「大菩薩峠」など、数えきれないほどの峠が存在しています。峠の多くは、県境や市町村境になっていることが多いです。

「二度上峠（にどあげとうげ）」もその一つです。県境ではありませんが、群馬県高崎市倉渕町川浦（かつての倉渕村川浦）と群馬県長野原町北軽井沢の境にあり、群馬県道54号線が通っています。幹線の峠の多くが、バイパスやトンネルで短絡される中、この峠道にはトンネルは一つもありません。高崎側から70のカーブを越えて上り詰めて峠を過ぎたとたん、眼前に雄大な浅間山が飛び込んできます。いかにも「峠らしい峠」だと思います。

私はよくこの峠の展望台（鼻曲山／はなまがりやまの登山口）に早朝の浅間山を眺めにいきます。この日の峠は霧に覆われていたのですが、霧が晴れると、果たして素晴らしい浅間山が姿を現しました。

(2024年9月中旬／群馬県長野原町二度上峠)

